

# ロシアの戦争犯罪糾弾 憲法改悪阻止! 核共有・敵基地攻撃策謀を許すな!

ロシアのウクライナでの蛮行に對し世界中の国民や政府から非難の声が上がり、經濟的制裁も含め、ロシアへの世界的な批判が広がりを見せています。国連総会ではロシア非難決議、人権理事会理事国資格停止が決議されました。

私たち国賠同盟もこれらの運動の一端に加わり、ロシアの蛮行糾弾と反戦世論をさらに広げ進めてゆくことが求められています。

一方では、ロシアの侵略を口実に日本の軍事国家への策動も、一段と強まっています。「憲法9条改悪」、「敵基地攻撃能力の保有」、「核の共有」などが自民、維新の中で声高に叫ばれ始め、自衛隊元幹部による「反戦デモ」敵視講演、安倍元

ロシアのウクライナでの蛮行に對し世界中の国民や政府から非難の声が上がり、經濟的制裁も含め、ロシアへの世界的な批判が広がりを見せています。国連総会ではロシア非難決議、人権理事会理事国資格停止が決議されました。

私たち国賠同盟もこれらの運動の一端に加わり、ロシアの蛮行糾弾と反戦世論をさらに広げ進めてゆくことが求められています。

一方では、ロシアの侵略を口実に日本の軍事国家への策動も、一段と強まっています。「憲法9条改悪」、「敵基地攻撃能力の保有」、「核の共有」などが自民、維新の中で声高に叫ばれ始め、自衛隊元幹部による「反戦デモ」敵視講演、安倍元



和歌山県版  
No.367  
2022.3.15

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
和歌山県本部  
☎ 640-8343  
和歌山市吉田102  
国労会館2階  
✉ FAX:073(422)7076  
<http://wakayama.exblog.jp/>  
<http://6250.teacup.com/chianijihou//bbs/>  
email:chian\_giseisya@yahoo.co.jp

私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないことを認めること。

- 一、治安維持法体制の復活に反対する。
- 二、国は、戦前の治安維持法が人道に反する法律であったことを認めること。
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと。

ひろげましょう。

署名運動、今期最後の奮闘を!  
国会請願が5月11日に

4月1日現在の治安維持法犠牲者の名誉回復を求める国会請願署名は、別掲(3頁)のとおり集約されています。前年度より千筆程の遅れがあります。最後の奮闘で世論喚起へ署名を進めましょう。

国会請願が5月11日に決定。中央本部へは第一次分として4月25日必着が求められています。県本部へは、4月22日までにお手元にある署名を届くようにしてください。各会員の方の手持ちの署名もそれまでに支部へ届けてください。



る情勢であります。厳しくなつてい  
る面もあります。  
ある面も  
いる面も  
あります。  
敵基地攻撃能力の保有」「核  
の共有」などが自民、維新の中でも声  
高に叫ばれ始め、自衛隊元幹部によ  
る「反戦デモ」敵視講演、安倍元

(絵手紙 田中千鶴子)

祥賀谷悠著『南紀州』三部作を読む  
本の泉社 2020.12.22.2

長編小説『南紀州』三部作の完結編である、『良の季節』が出版されました。『南紀州』は、紀伊半島の自然を背景に、戦前から現代までの100年という世紀を、農村に生きた萩原家の男女四人の主人公たちの物語で、その苦闘の息づかいが聞こえる壮大な物語です。

第一部：灰色の荒南風のとき では、戦前の紀南地方の三大労働争議である富田砥石争議の模様が、史実にもとづく臨場感あふれるリアルな筆致で描かれ、当時の砥石工たちの治安維持法下の闘いに吸い込まれてゆきます。

第二部:向かい風では、関西電力と中部電力が紀伊半島に計画した9カ所もの原発計画に立ち向かった住民たちや共産党員の闘いを、綿密な取材によって迫力ある物語として描かれています。

そして第三部の『良の季節』では、SNS世代のヒロイン良がベトナムのフォン、アメリカのソフィアとともに世界中の若者にマルクスの『資本論』を学び、資本主義を乗り越えようと呼びかけて起ち上がります。

著者の祥賀谷悠氏は、この物語を流れる大河のように壮大なスケールで描いています。読者は、萩原家の四人の主人公たちの苦闘、生き様の虜になりながら物語に引き込まれてゆきます。民主主義文学の新たな地平をひらく貴重な作品であり、未來を拓こうとする人びとに読んでもらいたい著者渾身の大河小説です。

(Y.T.)

水曜日に役場近くの交差点に立つようになりました。かれこれ6年余になりますが、この間に10人近くいた仲間が、亡くなったり、足腰が痛いと現在3人になりました。

それでも、火曜日の夜になるとといそいそ、明日の準備にかかります(美濃氏談)。

【こんな本読んだ】

上映開始

## わが青春つきるとも 伊藤千代子の生涯

## 和歌山市会場

プラザホープ4階ホール

5月29日(日)  
第1回 午前10時～  
第2回 午後1時30分～  
整理券 大人1000円 高校・大  
学生800円

那賀会場  
打田生涯学習センター  
5月29日(土)

5月28日(土)

午前9時30分~

上記以外の会場も検討しています。

## 国賠請願署名の進行状況 (4月1日現在)

	個人	団体
橋本・伊都	271	1
那賀	295	
和歌山東	233	6
和歌山西	29	
和歌山北	173	13
海南・海草	15	
日高	488	27
西牟婁	155	
県本部	88	9
計	1747	56

**美濃良和さんら大奮闘  
338回スタンディング続く**

清水先生は冒頭で、今年の参院選舉以後、「衆議院の解散がなければ、2025年まで国政選挙はない」、したがつて、今年の参院選は非常に重要と強調。そして、緊急事態条項論について、2012年の自民党の「日本国憲法改正案」から、2018年の改憲案など経過と問題点を詳しく解説。

「コロナ対応のために改憲」など暴論だと。コロナ対応の問題は、「憲法25条(生存権の保障・社会保障・公衆衛生の向上・増進責務)があるのに、全国の保健所数



参議院選挙は重要

参議院選挙は重要

守らう9条 紀の川 市民の会は4月9日、第18回総会と記念講演会を開催しました。

1992年＝852が、2021年470と諸外国と比べて少ない「医師」などの具体例で、改憲の必要がないことを示し、全面改憲のための「お試し改憲論」だと指摘。

さらに、「敵基地攻撃論」の内容と問題点」として、経緯や令和3年版防衛白書に基づく政府の基本的立場などを解説。清水先生はさらに、「形骸化する9条政

策」として、軍事費・防衛費問題などを示して説明されました。

市民の会総会では、

総会では、金原徹雄運営委員・弁護士が、参院憲法審査会の動きとして、「予算委員会での審議中は開催しない」という近年の慣例を破り、2月10日以降4週連続で毎週開催した。警戒が必要」と情勢報告。今年度の取り組み課題「憲法フェスタ」や予算、運営委員などを確認しました。

2月24日に、ロシアのブーチン大統領が、ウクライナに侵略戦争を始めて一ヶ月余。「ただちに侵略を中止せよ」という、世界の世論を無視して、ロシアは連日ウクライナで、非道の限り、無差別の破壊と殺戮を続けている。◆報道を見ていると、これが21世紀の時代に起きている現実かと、目をそらしたくなる。◆ところが怖いのは、このロシアの無謀な侵略に対し、「制裁だけでは戦争は止められない」（日経）、「今こそ同盟の力試されるとき」（産経）などと、軍事力の強化、「力の論理」があおられていることである。さらに、核兵器の抑止力や、「核共有論」まででてきていている。◆そして、3月30日の衆院外務委員会で、防衛省が反戦デモを敵視している実態を、日本共産党の穀田恵二議員が、資料を示して明らかにした。◆岸田内閣は、今年度予算でも巨額の軍事費を計上した。ロシア・ブーチン大統領の、許しがたいウクライナへの侵略を逆手にとつて、世界に誇る平和憲法の改悪をねらう自公の政権とそれをあおる維新の政治はNOと選挙で示そう。

## 『犠牲者名簿』(第2編)から (35)

和歌山県の治安維持法犠牲者(第2編)、同種計画版からいろいろ紹介します。

**坂本 能**(さかもとのぶ)

本籍 和歌山県東牟婁郡三尾川  
村(現古座川町)

1934年、大阪府において全協関係で検挙され、懲役2年となる。

1937年5月13日、大阪府において治安維持法違反で検挙されるが起訴猶予処分となる(28歳)。

新宮商業学校卒業後、大阪に移り木材労働者として働く。1928年、評議会・大阪木材労働組合に加入し、森本亮一らと活動する。1929年、常任書記兼オルグ。評議会解散後は、1930年、全協日本木材労働組合大阪支部常任委員。出獄後、新宮市で肺結核を療養中、1945年6月6日死亡。享年35。

**訂正**  
第366号(22・2月号)第一面、憲法9条を守る和歌山弁護士の会事務局長のお名前に誤りがありました。お詫びして訂正します。

浅野喜彦氏  
浅野善彦氏

## 随想 古今集を読んでいて 28

続・喜撰法師

前回、百人一首の喜撰歌はつまらない、喜撰という人物さえ怪しいといつたが、『古今集』には選ばれている。そのことを考えてみたい。

わが庵は三輪の山もと恋しくは  
とぶらひ来ませ 杉立てる門  
雑歌下(982)よみ人しらず

わが庵は都の辰巳 しかぞ住む  
世をうぢ山と人はいふなり  
雑歌下(983)喜撰法師

荒れにけりあはれ幾代の宿なれや  
住みけむ人のおとづれもせぬ  
雑歌下(984)よみ人しらず

前後の歌を並べると、この喜撰歌があつてこそ筋が通る。神様(三輪明神)は來いと言つてくれる(982歌)が、法師はうち山だから遠慮せよ(喜撰歌)という。結果、家は荒れ果ててしまつた(984歌)。そんなストーリーになる。

『古今集』では、配列上どうしても必要な歌は撰者たちが創作した。その際、名前を出すこともある。しかし「」とする事もある。いはば、喜撰歌は、配列のおもしろさを演出するために撰者の一人が創作したのではないだろうか。

貫之が書いた仮名序の「詞かすかにして、始め終り確かならず。いはば、秋の月を見るに曉の雲にあへるがごとし」とは意味深である。喜撰歌を評する振りをして(批評は当たつていな)、喜撰は正体不明の人物だとぼけている。

撰者は、紀友則・紀貫之・凡河内躬恒・壬生忠岑の4人だが、喜撰は紀仙であろう」との言葉(高崎正秀)に従えば、喜撰は友則か貫之ということになる。そのいずれであろうか。

(續)

